慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『瓜子姫』奈良絵解題・影印
Sub Title	
Author	石川, 透(Ishikawa, Toru)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	2010
Jtitle	三田國文 No.52 (2010. 12) ,p.49- 51
JaLC DOI	10.14991/002.20101200-0049
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20101200-0049

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『瓜子姫』奈良絵　解題・影印

石川　透

解　題

御伽草子の有名な作品の中に、なかなか奈良絵本が確認できない作品があることを、以前、『三田國文』第四十五号（二〇〇七年六月）に「『一寸法師』奈良絵解題・影印」と題して記した。それと同じように、現在も伝えられている昔話でありながら、奈良絵本としての存在を知られていなかったのが、『瓜子姫（瓜姫物語）』である。

『瓜子姫』は、個人蔵の絵巻が『室町物語大成』第二（一九七四年二月）や、『日本古典文学全集・御伽草子集』（一九七四年九月）に紹介されている。それ以外には、やはり個人蔵の絵巻の断簡が存在するらしいが、いずれも個人蔵であるために、実物はほとんど公開されていない。

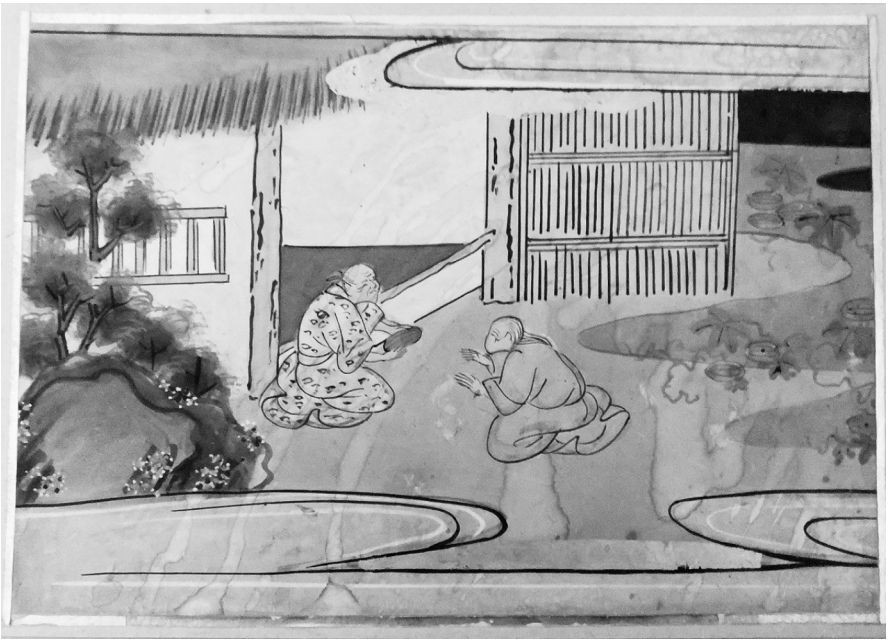
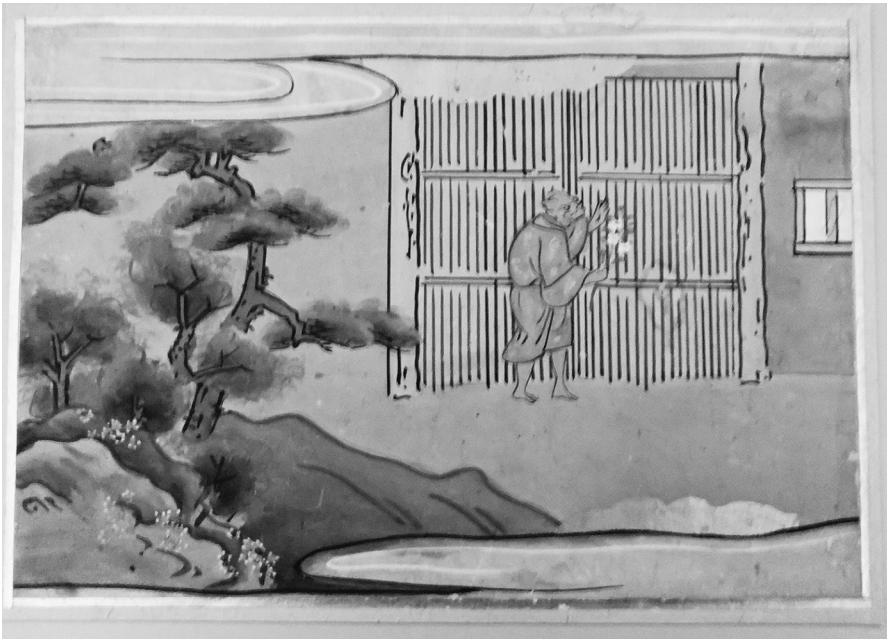
そうした中で、今回、明らかに『瓜子姫』の奈良絵本の挿絵部分を見出すことができたので、ここに紹介したい。

断簡は三枚のみであるが、爺婆が瓜を見出すところ、アマノジャクが姫を訪ねるところ、姫が木につるされているところ、といった、他の物語には見られない箇所が残されているので、『瓜子姫』と断定できる。

形は典型的な横型奈良絵本の挿絵であることから、本来は奈良絵本として仕立てられたものが、ばらばらにされ、一時期屏風等に貼られていたのが、再びばらされたのであろう。

この手の挿絵は、奈良絵本以外の用途として制作されることはほとんどないことから、もともとは、本文を備えた奈良絵本であったことが、推測できるのである。

時代は、個人蔵の絵巻と同じ江戸時代前期か、それよりも少し後のものであろう。たった三枚の断簡であるが、貴重な作品であるので、ここに影印を紹介する。

本書の書誌は以下の通りである。

所蔵、架蔵
形態、奈良絵本、断簡三枚
時代、［江戸前中期］写
寸法、縦一三・九糎、横二〇・四糎
料紙、斐紙
本文、なし
奥書、なし